解説シート No. 10－5　　2014.6.30 更新

親水公園・親水緑道
（しんすいこうえん・しんすいりょくどう）

遊水都市を目指して

江戸川区は、三方を川と海に囲まれ、内部にも中小河川の流れる「快適でやすらぎのあるみどりと水辺の町」の実現に向けてさまざまな取り組みを行っています。

その一つとして、身近な自然とのふれあい空間を区内全域に広げる、水と緑のネットワーク化を進めています。

水や緑は自然の象徴といえます。私たちは、自然に触れることで潤いや安らぎを感じます。これらの親水施設が、地域の方々のコミュニテイの場となるよう整備が進められました。

江戸川区親水公園・親水緑道路線図

かつては農業用水や水上交通路として

江戸川区にはかつて420kmにも及ぶ水路や中小河川があり、農業用水や水上交通路の役割を担っていました。子どもたちは魚とりや水遊びに興じ、人々は水と深い関わりを持った生活を営んでいました。

明治～大正頃の水路

江戸川区郷土資料室
〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス３階
TEL ： 03-5662-7176（9:00～17:00）

都市化の波による環境の悪化

急速な都市化の進展により、昭和40年頃にはこれらの水路や中小河川は、生活排水の流れるドブ川と化し、環境悪化の一途をたどっていました。

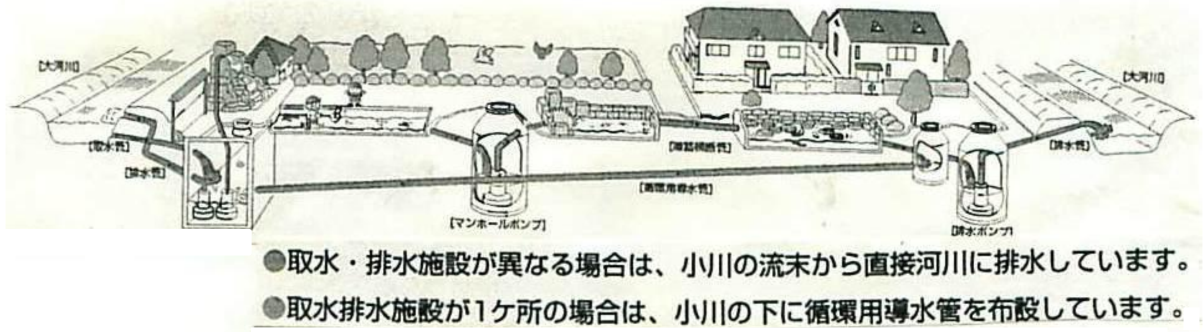
昭和40年頃の川の様子

親水計画「江戸川区内河川整備計画」

葛西処理場が建設され、やがて下水道の整備が進み、水路について、昭和47年に「江戸川区内河川整備計画(親水計画)」が策定されました。親水公園の上流に近い大河川から水を引き浄水場で一旦ろ過したきれいな水を親水河川に流した後、下流の排水場から別の河川に排水します。

昭和49年に親水公園第1号が完成

水の流れのシステム



流水方法

親水公園・親水緑道に流れている水は江戸川、旧江戸川、新中川など自然水を取水管（しゅすいかん）により引き入れられています。必要に応じてポンプアップをしながら、川の勾配により自然に流れています。

水質

(1)古川親水公園、小松川境川親水公園など ──→ 浄化滅菌処理水を流す。

(2)下小岩西小岩を除く緑道、一之江境川親水公園など ──→ 自然水のまま流す。

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス３階
TEL ：03-5662-7176（9:00〜17:00）